

平成22年度第1回横浜市次世代育成支援行動計画推進協議会会議録	
日 時	平成22年5月11日（火）10時～12時10分
開催場所	関内中央ビル5階 大会議室
出席者	伊志嶺美津子委員、岩倉憲男委員、岩永牧人委員、岩本真美委員、奥山千鶴子委員、河原隆子委員、小林創委員、小山陽子委員、関山隆一委員、高橋勝委員、伊達直利委員、辻悠一委員、土山由巳委員、橋本ミチ子委員、三輪律江委員、八木下明委員、安田渡委員、柳井健一委員、矢野真里委員、渡辺久子委員、渡邊英則委員
欠席者	岩室紳也委員、白井尚委員、菱川広昭委員
開催形態	公開（傍聴者1人）
議 題	1. 後期計画（原案）の確認について ア 後期計画（原案）の概要について イ 素案からの主な修正点について ウ パブリックコメントの実施について 2. 計画の推進について
決定事項等	
<p><b>議事</b></p> <p>1. 後期計画（原案）の確認について</p> <p>ア 後期計画（原案）の概要について （事務局）資料に基づき説明。 ・意見なし</p> <p>イ 素案からの主な修正点について （事務局）資料に基づき説明。 ・意見なし</p> <p>ウ パブリックコメントの実施について （事務局）資料に基づき説明。 （岩倉委員）基本施策4について。放課後児童クラブのご意見が多かったということだが、はまっ子ふれあいスクールと放課後キッズクラブについての市民からの意見はなかったのか。 （事務局）大きな分類の中で、学童関係、放課後児童関係は非常に多くの意見をいただいた。はまっ子ふれあいスクールと放課後キッズクラブについては大きな枠でくるとないという状況だった。 （土山委員）基本施策8について、発達障害児への支援というのを原案に反映したとあるが、読み取ることができないように感じるがいかがか。 （事務局）原案にて、発達障害児への支援について具体的な取組を記載し、原案で新たに学齢障害児への支援についても取組を記載させていただいている。後に作成する概要版にて市民への積極的にPRしていくが、今いただいたご意見も踏まえながら整理していきたいと考えている。 （小林委員）パブリックコメントなので、アンケート調査ではない。その他に分類される意見など、実際に市民の方がどのようなお考えなのかわかるような資料があるといいと思う。 （事務局）今回のパブリックコメントにつきましては、最終的にはこども青少年局のホームページにて、グラフ形式ではなく、もう少し詳細に、細かい内容にした形で公表する予定である。 （三輪委員）一点目、施策分野1「生まれる前から乳幼児期の支援」について、評価指標が「こんにちは赤ち</p>	

さん訪問」事業の訪問率となっているが、その事業は産後の話である。産前もしくは妊娠しようとしている時期から地域でどういう母親教室をやっているとか、どこに行けばどんな支援があるとか、そのような情報を提供するのが、行政の役割だと思う。また二点目、基本施策3の「保育の質の向上」についてだが、意見として、保育市さんや食育といったソフト的な質の話なのか、もしくはハード的な園庭の問題だったのか、どのような意見だったのか。

(事務局) 基本施策1については主な意見として、出産後について、不安なことが多いので充実させてほしいということ、それから、生まれる前を含めて、家族以外の支援が気軽に受けられるといい、家庭に踏み込んだ支援をしてほしい、保育所不足など子どもを産みにくい状況があるということで不安に思うというご意見が多かった。また、保育環境については、保育さんの待遇を改善することによって保育の質の向上につなげてほしいとか、現場での子どもたちへの環境を良くしてほしいといった意見が中心であった。

(事務局) 「保育の質」という場合に、量に対する質ということで、保育内容や時間延長が挙げられる。また一方で、保育士の質やスキルということで捉えることができる。この計画の中では「多様な保育ニーズへの対応」として、地域全体の保育資源ネットワークを構築しながら質を高めていきたいと考えている。

(渡辺久子委員) 大変わかりやすいプランだと思うが、子どもたち自身から、これは良いと言われるものかどうかということはどう考えるか、どう検証するか、という視点も必要だと思う。やはり、子どもが何を考えているかがもう少し出てくると、子どもたちも受け止めやすい計画になるのではないか。このプランに限らず、行政の方は10代の子どもたちの意見をもう少しくみ上げていけるようなシステムを検討するようなものがあつたほうが良いと思う。

(渡邊英則委員) 先ほどもでてきた基本施策3の「多様な保育ニーズへの対応」だが、保育時間を延長します、一時保育、休日保育やります、と預かる方向に全部向いているが、その数字が上がっていくことが本当にいいことなのか疑問に思う。その理由は、子どもが病気だったら、お母さんかお父さんが帰れるようにしよう、とか、ワーク・ライフ・バランスの話で、親の価値観を変えていく、また先ほど渡辺久子委員がおっしゃられたように、本当に子どもたちがSOSを出したときに、親はまず子どものそばにこよう、などという環境づくりが必要なのではないか。きちんと子どもに対して向かい合っていくという思いをメッセージとして出していただきたいと思う。

(菱川委員) これまでの分科会で初めの頃は、まず家族の力を高めるためにどんな取組ができるかという話し合いをした。いろいろな議論を重ね、今子どもたちに必要なのは、施設ではなく保育だと、意見を述べさせていただいた。子どもにとって良質な保育として、子どもが本当に楽しめる環境であることと、一方で就労する親が託児という意味で預ける、その両面がきちんとあつていないと大事なものが抜け落ちてしまうのではないかと感じている。預けるために、就労時間を長くするなど、待機自体の内容が大きく変わってきている。子供が保育所に預けられること、長時間預けられることについて、本当にそのように望んでいるのか、気をつけなければいけないと思う。

(伊志嶺委員) 最近、大学生を見ていても、親子のコミュニケーションがとれていないなど感じることもよくある。子どもに向き合っていないなどという親御さんが多く、仕事を優先にしていると感じる。家族の向き合い方や、家族が家族として力をつけるということを進めていかないと、家族への価値が低くなってしまふ。子どもが育つためには意見を聴いてもらうことが必要で、カナダでは法律で子どもは聞いてもらう権利があることを認めている。子どもの視点というか、意見を聞く機会も本当に世の中には少ないと思う。親子関係を大事にしていきたいと思う。

(伊達委員) 私は社会的養護の仕事をしているが、結局つまるところは、親子関係ということで話が出ている

が、もう一歩進めると、親がいない場合もあるので、本当に養育の関係をどのように我々は構築できるのかというのが基本的には次世代育成の核だろうと思う。きちんと子どもたちと向き合っていくことを念頭に施策を考えていく必要があると思う。

(柳井委員) 育児短時間勤務で通常の半分の時間働いて、半分は子どもと一緒に過ごしたいという親はいっぱいいるが、そうすると保育所に入れなくなってしまうから、結局フルタイムで働かざるを得ないという矛盾がある。やはり、キーワードは、ワーク・ライフ・バランスなのだろうと思う。これを広げていくこと、働く者にとってもこのことは訴えかけていかなければいけないと強く感じている。

(高橋委員) 子どもと向き合うということ、子どもたちは親と向き合い、また地域の大人が向き合う、そういう姿勢をしっかりとつくりながらこの計画を実施していきたいと思う。それでは、事務局からもご説明いただいたが、そのような形で原案としてこれを確定させていただきたい。

## 2. 計画の推進について

(事務局) 資料に基づき概要を説明。

(辻委員) 自分のこれまでのボランティアの経験から、イベントを企画して、こういう理念でやりますと言ってもなかなか人が集まってこない。どうしたら集まるかという、自分から友達に声をかけるのが一番良く集まる。理念がいくらしっかりしていても、興味がある人には伝わるが、興味のない人に対してはほとんど伝わらない。このプランを推進していくにあたって、やはり人と人の関係をベースに進めていくことが重要だと考えている。

(小山委員) 概要版を作られるという話があったが、本当に今子育てをしているお母さんたちが読んでわかるような、ちょっと飛びついてくるような形のハンディなパンフレットを作っていたきたい。また、うちには高校三年生の息子がいて、小学校の先生を目指しているの、この冊子を一緒に読ませたところ、「これって僕たちのプランだよね。でも僕たちの意見は何も入っていないじゃん」と言われた。また、「輝くのは僕たちだよ。僕たちにもう少しわかりやすいように説明する子ども向けリーフレットとか、学校の授業で取り上げたりするとか、いろいろな方法があると思うから、自分たちのプランという形でこの先何かできたらいいな」と言っていたので、それをお伝えしたい。

(小林委員) わかりやすく伝えるということは非常に大切だと思う。例えば手法になってしまうが、「はまっ子宣言」を作ってしまうとか。会津若松市に「あいづっこ宣言」というのがある。あるいは今、ワーク・ライフ・バランスで親育てみたいなこともあるかと思うので、例えば、横浜のはまっ子の親はこうだよ、などというメッセージの伝え方を検討してもいいのかと思う。

(奥山委員) 皆さんから上がってきた子どもたち向けのパンフレットの話は本当にいいと思う。私たちの地域子育て支援拠点「どろっぶ」のパンフレットも、子どもたちが真ん中というのをコンセプトに作っている。子どもが輝く、子どもが真ん中になるために親がどのように支えるのか、また、子どもを守るための親、そしてそのまわりの人たち、制度、環境があるというような見せ方のパンフレットを是非つくっていただけるといいのではないかと思う。

## 3. その他

(事務局) 配布資料について説明。

・意見なし

(事務局) 本日の議事録は各委員に確認していただいた後、ホームページ上で公開する予定である。

(高橋会長) 以上で平成22年度第1回推進協議会を終了する。

以上

資料

- 1-1 かがやけ横浜こども青少年プラン後期計画（原案）次第
- 1-2 横浜市次世代育成支援行動計画「かがやけ横浜こども青少年プラン」後期計画について【概要】（A3版）
- 1-3 前期計画の進捗状況について
- 2 素案からの主な修正点
- 3 後期計画に関するパブリックコメント等の集計状況について
- 参考1 平成22年度こども青少年局運営方針
- 参考2 平成22年度こども青少年局予算概要
- 参考3 新たな中期計画の方向性